

足立校区の元気プラン

住民発

足立校区 小地域福祉活動第二次計画



ふれあいネットワーク

足立校区社会福祉協議会



もくじ

ごあいさつ	… 2
第1章 計画策定にあたって	… 3
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 足立校区の現状と課題	… 4
1 地域社会の動向	
2 地域の福祉課題	
第3章 計画体系	…5
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目(体系図)	…6
4 重点実施項目	
① 次世代地域福祉活動者の育成	…7
② 生活支援活動の充実・発展	…8
第4章 計画の推進	…10
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第三次計画の策定	
参考資料	
策定委員名簿	…11
福祉計画推進委員会実施一覧表	…12

ごあいさつ

足立校区は都心に隣接した平坦地に在り、買物や通院等にも利便の良い生活しやすい地域で、以前は市場が二つあったり、たくさんの商店があったりで、賑わいとふれあいの多い町でした。しかし近年は、独居高齢者や空き家が増え、マンション等では若年層人口の流入も多く、地域との関わりを持ちたがらない住民の増加や自治会の加入率低下など、昔ながらのご近所付き合いや助け合いの関係が希薄になってきました。

足立校区社会福祉協議会では、平成11年からふれあいネットワーク活動による地域の見守りや声かけ、助け合い活動などを推進し、福祉協力員や民生委員・児童委員、自治会関係者等との連携により、高齢者の支援をはじめ、子どもの健全育成や地域の活性化を目的とした様々な活動に取り組んできました。また、地域の福祉課題解決に向け、平成24年度には、他校区に先駆けて小地域福祉活動第一次計画「足立校区の元気プラン（2013年度～2017年度）」を策定しました。

しかし、団塊の世代が75歳以上となり、社会保障制度や福祉施策の対象者が一気に増加することが予測されるいわゆる“2025年問題”も近い将来に迫るなか、福祉活動のより一層の推進は喫緊の課題となっています。

そこでこのたび、「見守り・ふれあい・支え合い」を基本理念とする、小地域福祉活動第二次計画「足立校区の元気プラン（2018年度～2022年度）」を新たに策定いたしました。

これまで地域活動に関わっていなかった人の中には、参加意欲はあるがどうやって参加してよいのか分からず活動に結びついていなかったこともあるかもしれません。この計画が、足立校区の福祉活動発展の取り組みのきっかけや、多くの方々の参加・協力に結びつくことを切望いたします。

終わりに、この計画の策定にあたりご尽力をいただきました策定委員並びに関係者の皆様に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

平成30年4月1日

足立校区社会福祉協議会

会長 片山 浩邦

第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、足立校区の様々な福祉課題を解決するために、住民が将来の見通しを持って計画的に行動しようとするための行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、足立校区に住む人たちが安心して暮らせる、支えあいを活動の原点となる計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域おこし活動を進めていく計画です。

(4) 足立校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や、発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。計画の推進にあたっては、足立校区社協のみならず、関係団体による既存の活動などとも連携し、福祉課題の解決に努めます。

2 計画の期間

この計画は2018年度から2022年度までの5ケ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば随時見直しをおこないます。

3 計画の策定経過

足立校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、足立校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置いたしました。平成29年11月21日に立ち上げた同委員会において19名の委員により5回に及ぶ協議の上、第2次足立校区小地域福祉活動計画を策定しました。

第2章 足立校区の現状と課題

1 地域社会の動向

世帯数	総数	総人口			
		5歳未満	幼児（5歳未満）人口比率	65歳以上	高齢化率
6,409	10,748	404	3.8	2,770	25.8

町内会数 (個)	自治会加入率 (%)	29/5 現在
27	39.6	

保育園	キンダーポート保育園・三萩野保育園・西教寺保育所
小学校	足立小学校
市民センター	足立市民センター
病院	クリニックりぼんりぼん・北城クリニック・安藤整形外科・まつか内科クリニック・太田町医院・すなつ松井クリニック
介護施設	特別養護老人ホームゆーとぴあ宇佐町・グループホームいこいの里宇佐町 あおぞらの里宇佐町デイサービスセンター・リハビリデイサポート砂津 三原デイケア
銀行	西日本シティ銀行宇佐町支店
郵便局	宇佐町郵便局・砂津郵便局

○校区概要

足立校区は、都心に隣接し、職住近接した生活しやすい環境にあります。

かつては、小倉炭鉱があり活気を帯びた地域で、江戸時代につくられた小倉城下の中津口門から中津城を結ぶ中津街道は宇佐町のメイン道路として、スーパーや銀行、病院、飲食店が立ち並ぶ賑わいのある街です。しかし、近年空き家住宅の跡地には高層マンションや駐車場・ワンルームマンションが増え、その大半が自治会未加入の為、広報の周知が徹底せず、既存の住民とのトラブルが発生していることも事実です。

2 地域の福祉課題

足立校区では平成11年よりふれあいネットワーク活動が展開されていますが、住民のプライバシー意識の変化や、一部地域の高齢化も進行しており、福祉活動者の確保が困難になり、活動者の早急な発掘・育成が求められる状況になっております。

また、高齢化にともない、住民同士の関係や助け合いが希薄になり、生活のしずらさを抱えた高齢者がいることも確かです。

これらの問題を解決するためには、関係機関・団体の協力のもと、地域の社会福祉資源を有効活用し、同時に地域住民に社会福祉活動に関心を持っていただき、人材・財政面での基盤強化を進めることが必要です。

第3章 計画体系

1 基本理念

「見守り・ふれあい・支え合い」

足立校区では子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して穏やかに生活できる“ふれあい”と“支え合い”のまちにしたいと願っています。そこで、住民一人一人の安全で安心な暮らしを守るため「見守り・ふれあい・支え合い」という言葉を小地域福祉活動計画の基本理念として推進していきます。

2 基本目標

■ 基本目標1 「福祉を学び、助け合いの意識を高めよう」

住民一人一人に地域福祉活動を身近なものとして感じてもらうため、子どもから大人まで、地域住民が参加できる様々な学びの機会を作り、これからの地域福祉を担う人材を育てていきます。また、広報紙やホームページ等を活用した啓発を行い、福祉の風土づくりを進めます。

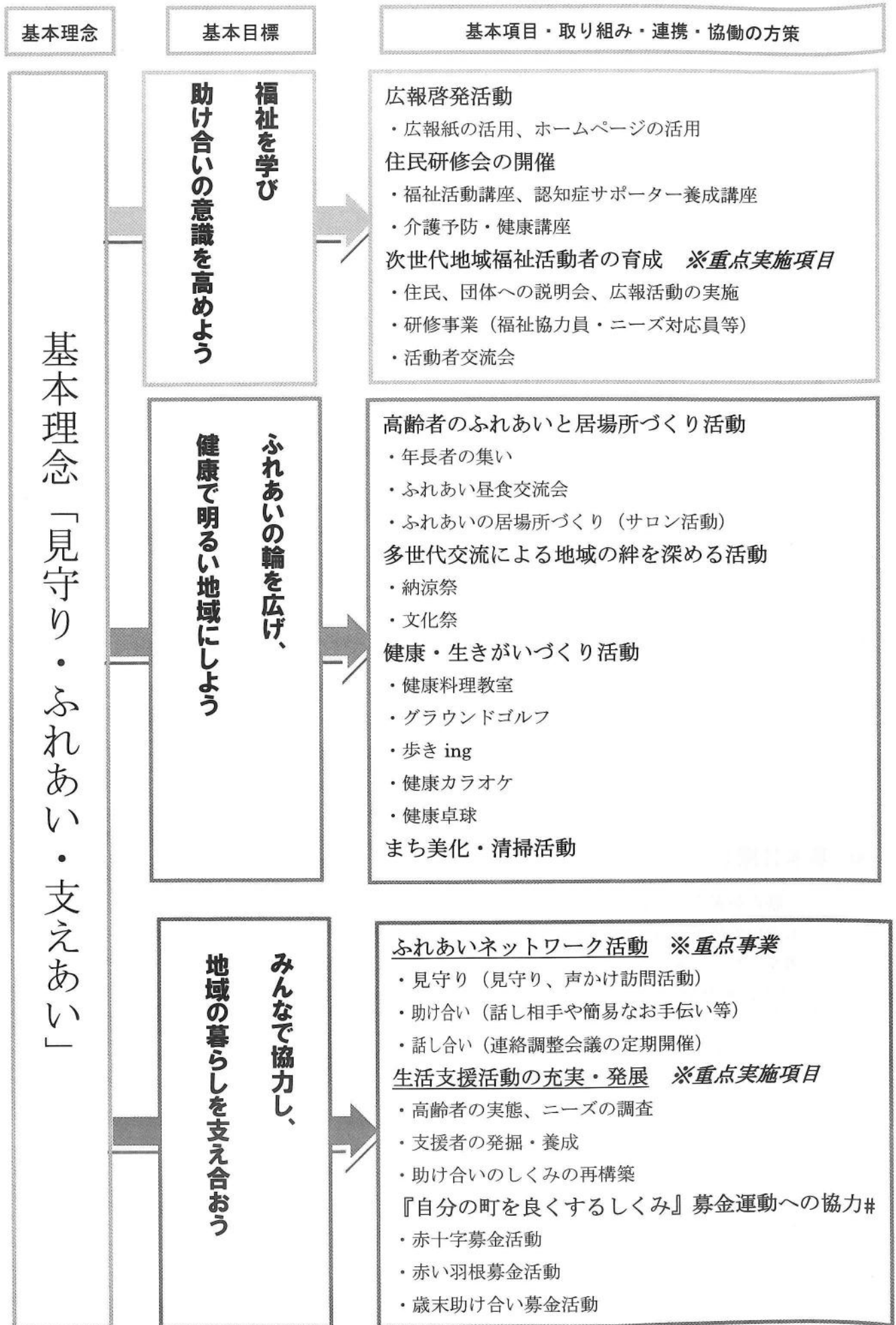
■ 基本目標2 「ふれあいの輪を広げ、健康で明るい地域にしよう」

子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しく交流できるふれあいの場づくりや行事などを企画・実施します。また、支援が必要な方が地域で孤立しないよう、住民同士のつながりや人と人との絆を深めるとともに、高齢者がいつまでも健康で生き生きとした生活を送れるよう、健康づくりや介護予防事業に取り組みます。

■ 基本目標3 「みんなで協力し、地域の暮らしを支え合おう」

誰もが安心して暮らせるよう、「ふれあいネットワーク活動」を推進し、見守り・助け合い・話し合いの地域福祉活動に努めます。見守りや声かけ活動の中で把握した、日常生活のちょっとした困りごとを地域のみんなで支援し合う助け合いのしくみを再構築します。

また活動財源の確保と地域福祉への協力者を増やすことを目的として、各種募金活動の拡充に努めます。



重点実施項目-1

次世代地域福祉活動者の育成

1 課題背景及び現状

足立校区社協では平成11年からふれあいネットワーク活動による地域の見守りや声かけ、助け合い活動などを推進し、福祉協力員や民生委員・児童委員、自治会関係者等との連携により、高齢者や障害者等の支援をはじめ、子どもの健全育成や地域の活性化を目的とした様々な事業に取り組んできた。

しかし、近隣や地域との関わりを持ちたがらない住民の増加や、地域活動の基盤組織である自治会への加入率低下など、人と人とのつながりやふれあいが希薄化し、役員や福祉協力員等、地域福祉活動者の高齢化も進むなか、新たな若手活動者の参加は難しく、ますます複雑化・多様化する地域福祉ニーズへの対応が困難になっている状況である。

2 活動の方針・目標

地域住民一人一人に地域福祉活動を身近なものとして感じてもらうため、広報紙やホームページの活用による社協活動のPRを行うとともに、現役・若手世代を含む住民や様々な地域団体の活動者などを対象とした説明会や研修会を開催する。また、参加しやすい（参加したくなる）活動・事業になるよう創意工夫し、活動者の負担感を軽減することで、「出来る人が、出来ることを、少しずつ・・・」のお互いに協力し合える、支え合いの地域風土を醸成し、次世代地域福祉活動者を発掘・育成する。

活動者同士が情報を分かち合い、学びと共感を深めるチームづくりを行うことで、楽しく活動を継続できるよう、連絡調整会議や研修会を充実し、活動者交流会の開催を行う。

3 段階的な取り組みの年次計画

取り組み内容	連携する機関	2018	2019	2020	2021	2022	備考
社協活動・事業のPR強化 (広報紙、ホームページの活用)	自治区会 まちづくり協議会 市・区社協	→					様々な媒体を活用した、活動情報の発信
事業・活動の見直し・検討	自治区会 まちづくり協議会	→			→		既存の事業・活動を見直し、参加しやすい取り組みへ地域や福祉関係団体の他、クラブや施設、企業へも協力を依頼。
説明会（住民・団体）の実施。新規参加者の加入促進	自治区会 学校・PTA 地域住民 市民センター		→				理解を深め、地域への愛着を育む研修会の企画・実施
新任研修会の実施	市・区社協 関係機関・団体		→				

連絡調整会議をはじめとした話し合いの場の充実	社協構成団体 関係機関・団体 ボランティアなど						関係機関・団体の参画による毎月の連絡調整会議
活動者交流会の開催	社協構成団体 関係機関・団体 ボランティア等						ふれあいと絆を深め、楽しく活動を継続出来る場づくり
活動点検・評価・見直し	社協構成団体 関係機関・団体 地域住民						計画の中間年度の見直しと最終年度の総括

重点実施項目-2 生活支援活動（助け合い）の充実・発展	
1 課題背景及び地域の現状	
<p>足立校区は、都心に隣接した平坦地にあり利便に良い生活しやすい地域であるが、マンションや集合住宅等では若年層人口の流入が多く、人と人とのつながりが希薄化する中、昔ながらのご近所付き合いや助け合いなどは難しくなっている。古くからの住宅地や集合住宅では高齢者が多く、また、昨今は、独居世帯や高齢者のみ、昼間一人のみ世帯が急増し、閉じこもりがちの人も増えている。</p> <p>こうした中、高齢者などの個人や家族の力、あるいは、公的な支援ではカバーすることが難しい、日常的な困りごと（ゴミ出しや電球の取り換え、買い物、軽作業、外出支援など）を地域で支援する仕組みが必要となってきた。</p>	
2 活動の方針・目標	
<p>高齢者の地域住民が抱える生活のしづらさや困りごとなどのニーズの実態調査・把握を行い、重点実施項目の必要性や実施の是非、方法などを検討する。</p> <p>検討の結果、実施が決定すれば、ニーズ対応に係る、新たな助け合い活動の仕組みやルール作りを行うとともに、関係地域団体とも協力し、ニーズ対応にあたる新たな協力員の募集、研修を行う。</p> <p>並行して、生活支援にかかわるサービス提供を行う団体や企業、商店などの情報を収集し、支援マップを作成し、協力員活動者や地域団体、高齢者世帯等への配布を行う。</p> <p>生活支援活動の開始について、広報紙、チラシ等による、地域住民へのPRを行う。</p>	

3 段階的な取組の年次計画							
取組内要	連携する機関	2018	2019	2020	2021	2022	備考
ニーズの内容、量の調査 (アンケート、訪問聞き取り)	自治区会 民児協	➡					重点実施項目の必要性について調査し、実施の是非や方法などを実態に即して確認する。
運営方針、組織づくり	自治区会 民児協 まちづくり協議会		➡				地域で対応を行う運営の仕組み、4役割り分担、財源の確保など。
生活支援サービス情報の収集 支援マップづくり	自治区会 民児協 まちづくり協議会 施設・企業・商店		➡				高齢者への配布に向け、生活支援情報をマップ化。
協力員の募集・養成	社協構成団体 関係機関・団体 住民		➡				既存のクラブ活動者や若い世代の発掘、育成。
広報、宣伝活動	自治区会 民児協 市民センター				➡		広報紙。チラシ、声かけ、口コミ等による参加勧奨
生活支援サービスの実施	社協構成団体 関係機関・団体 住民・協力員					➡	事業の実施と計画の進行管理

第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 校区社会福祉協議会総会などを通じた地域福祉活動者への計画の承認と周知
- ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- ③ 広報紙やホームページへの掲載を通じ校区住民への周知徹底を図る

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

足立校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の推進管理を行います。

小地域福祉活動策定委員は、引き続き小地域福祉活動推進委員としてその任務を遂行します。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

(2) 計画の進行管理

足立校区小地域福祉活動計画推進委員会を年3回程度開催し、次の点について確認します。

- ① 当年度の事業推進の確認
- ② 年度内における中間確認
- ③ 次年度の事業確認

また、推進委員会では PLAN(計画)・DO(実行)・CHECK(点検・評価)・ACTION(改善)という PDCA のサイクルを回しながら、各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合は、その原因を明らかにし、問題解決への対策を立て、その対応を実施します。

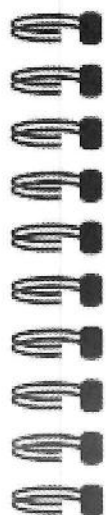
(3) 計画期間の中間時点では、計画全体の中間見直しをし、最終年度には総括評価を行います。

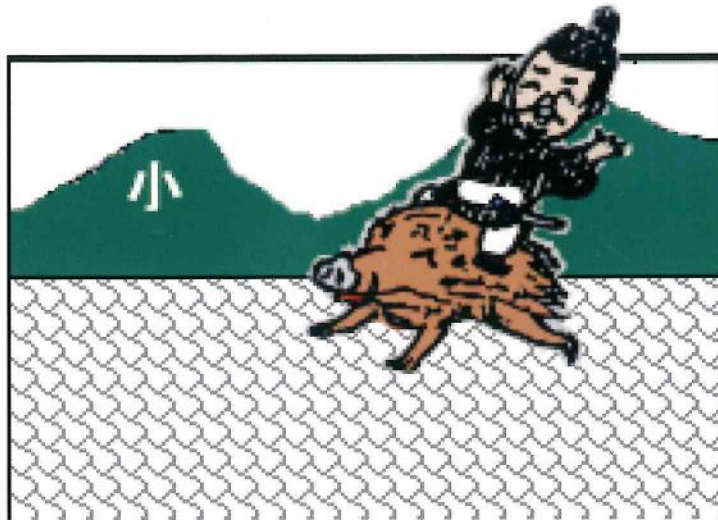
3 第3期計画の策定

第2期計画の推進状況を踏まえて、第3期計画の策定期間には新しく第3期計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

足立校区福祉プラン5ヶ年計画策定委員一覧表

	氏 名	役 職	住 所
1	片山 浩邦	足立校区自治会会長	宇佐町1-3-5
2	穂坂 文博	足立校区自治会副会長	下富野4-9-1-305
3	佐口 久生	足立校区自治会副会長	宇佐町2-14-18
4	別府 義明	民生委員児童委員会会長	太田町11-18
5	渡邊 和利	民生委員児童委員会副会長	宇佐町1-6-46
6	武本 幸雄	シニアクラブ副会長	太田町4-9
7	安高 直樹	子供育成部会長	宇佐町2-7-1-202
8	梅本 珠美	足立小学校PTA会長	中津口2-3-203
9	江崎 加代子	食進部会長	宇佐町1-10-36
10	藤井 利子	健康づくり部会長	太田町3-13
11	松本 勉	町内会長	太田町14-10-403
12	山田 満江	女性部会長	明和町6-22
13	大久保 均	青少年育成会	太田町16-8
14	山田 孝	町内会長	明和町6-22
15	篠原 順治	町内会長・環境補導部会長	宇佐町1-5-4
16	南 義人	町内会長	砂津2-7-13
17	伊寫 正行	町内会長・保護司部会長	太田町1-11
18	中森 直樹	町内会長	砂津2-11-20-710
19	宮地 大司	町内会長	砂津2-12-25





足立校区社会福祉協議会

〒802-0016 北九州市小倉北区宇佐町1丁目8番15号 足立市民センター内
TEL 093-541-5085 FAX 093-541-5086

小倉北区社会福祉協議会

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町1番1号
TEL 093-571-5452 FAX 093-571-9553

北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号ウエルとばた内
(代表) TEL 093-871-4401 FAX 093-882-3579
(福祉部) TEL 093-873-1296 FAX 093-873-1351